



特別医療法人高明会  
西宮渡辺病院

2007.5.1

vol. 30

〒662-0863 西宮市室川町10番22号  
TEL:0798(74)2630 FAX:0798(74)7257

ホームページ <http://www.n-watanabe-hosp.jp/>



## 治る認知障害もある

脳神経外科 伊藤 隆彦

最近になって、人口の高齢化に伴い認知症の話題があちこちで取り上げられるようになりました。アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、牛海綿状脳症などがあります。一般的には認知障害は治らないと思われていますし、実際に治療が困難な状態でもあります。頭を使ってほけないようにと今ではゲームまで発売され、よく売れているようです。しかし、実際病気になれば症状は進行するもので、本人の努力では進行を止められないものです。アルツハイマー型認知障害では、病気の原因とその治療法がかなりのところまで開発されているという報告もあり、治療が可能になることを多くの人が待ち望んでいます。

こうした中、比較的簡単な手術で症状が改善する認知障害があるのをご存じでしょうか。その病態を正常圧水頭症 (Normal Pressure Hydrocephalus 以下 NPH) と言いますが、今回はこの NPH の話をします。

NPH とは、成人において脳室拡大があるにもかかわらず髄液圧が正常範囲内で、神経症候として健忘性認知障害、歩行障害、そして尿失禁をきたし、後に述べるシャント術によりこれら

の症候が著しく改善する病態を指します。家で暮らしている方では歩行障害が最も重要な症状で、ここが老人性認知障害との鑑別点であり、また歩行障害がみられればシャント手術の効果が期待できるともいわれています。

治療法としては脳室内の髄液を腹腔（あるいは心房内）に導き、そこで吸収をはかるシャント（短絡）手術が行われます。このシャント手術による改善率は、原因の明らかな続発性 NPH で 60 - 70%、特発性 NPH で約 40% と報告されています。

このように一般的にはなじみのない病名ですが、手術をする前に髄液を 30ml 程抜いて症状が改善するかをみることにより、比較的簡単に治療効果を推測することができるため、この検査をしてから手術の検討に入ります。手術の効果が有る場合、手術翌日から食事ができますし、リハビリも開始します。約 3 週間ほどで退院することが多いとされています。

転倒したり熱が出たりした後に、数日から一週間ぐらいで急に認知障害が出た場合などは、NPH を疑って一度検査をしてみると良いのではないのでしょうか。

## むろかわ News

## 発行30号達成

このむろかわ News は、当院の取り組みや医療を取り巻く情報を地域に発信する広報誌として、平成 14 年 10 月に第 1 号が創刊されました。

創刊より 4 年半、このたび 30 号を発刊することができました。

広報誌としてまだまだ不十分な点も多く、ご満足いただけないところもあると思いますが、

地域の皆さまと当院との橋渡しとなり、医療情勢や疾病などの情報を知っていた

たく媒体としてお役にたてるよう、今後もより良い誌面作りに取り組みたいと思います。

これからも引き続き、むろかわ News ご愛読のほど、よろしくお願ひいたします。





# 病気に関する



# 知識



病気になると、体の働きや機能に異常が起こりますが、その異常とともに、体の各組織や臓器に『病変』が生じます。この病変が生じると、それを反映する『症状』が現れますが、これら『病変』や『症状』について知識があると、身体の異常を読み取り病気の早期発見につながる手助けになります。

そこで今回、6種類の『病変』と9つの代表的な『症状』について、簡単にご紹介します。



## 6種類の『病変』

### (1) 循環障害

血液・リンパ液の循環状態に障害が起こり、心臓や血管などの組織・細胞に異常を起こす病態を総称したもので、その障害の影響は、血流・脈拍・血圧・酸素供給などに現れます。

〔例〕ショック（循環不全） 心筋の梗塞  
脳出血や梗塞 血栓 塞栓 虚血  
充血 うっ血 むくみ（浮腫） など

### (2) 炎症・免疫異常

体の組織中に防御反応として炎症が起こり、発熱・発赤・腫れ・痛みなどを生ずる病変をいいます。

〔例〕感染が契機となって起こる肺炎 麻疹  
ヘルペス マラリア  
アレルギー疾患の気管支喘息  
関節リウマチ等自己免疫疾患 など

### (3) 栄養・ホルモン・代謝の障害

細胞・組織・臓器の衰え（萎縮や個々の細胞死）、アポトーシス（プログラム細胞死）の異常などが原因で起こります。

〔例〕代謝異常による痛風 結石 糖尿病  
加齢による難聴 視力の低下（白内障）  
肥満症 閉経後の骨粗鬆症 など

### (4) 機能の異常亢進などによる、

細胞・組織・臓器の増大

細胞・組織・臓器が肥大（容積の増加）したり、細胞数が増加したりする病変のことをいいます。

〔例〕血圧亢進による心肥大 皮膚のケロイド  
前立腺肥大症 など

### (5) 腫瘍

細胞が異常に増殖する病変の総称

で、良性腫瘍と、各種がんや白血病などを含む悪性腫瘍とに分類されます。その違いは、良性腫瘍が発生組織や臓器の中で限られた大きさまでしか増殖しないのに対し、悪性腫瘍は急速に増殖し、他の組織や臓器にまで浸潤・転移することです。

### (6) 先天性異常・奇形など

体の発生異常による病変のことです。先天性異常は、出生時に確認されるか、あるいは潜在するもので、形態的・機能的異常の総称です。出生後にみられる形態的異常を先天奇形といい、新生児の2～3%に現れます。

〔例〕水頭症 先天性心疾患 など



## グループホームむろかわ お花見会開催!



4月の穏やかな春の日、グループホームむろかわでは近隣の公園にて、お花見を兼ねた散策を行いました。

公園は桜がきれいに咲いており、子供さんがお母さんと一緒に遊んでいたりと、地域の老人会の方々がゲートボールを楽しんでいました。

入居者さまとスタッフは、それらほのぼのとした光景を眺めながら、美しい桜の下で、お茶を飲んだりおやつを食べたりして楽しい時間を過ごしました。





## 9つの代表的『症状』

### (1) 全身倦怠

他の症状ほど緊急度は高くありませんが、精神的なものも含む様々な異常を背景とするため、解析が難しい症状です。急性心筋梗塞や脱水を伴う電解質異常や高齢者に多い感染症、薬剤の副作用などが原因の場合には、対応の遅れが問題になることもあります。甲状腺の機能低下や肝疾患、貧血を伴う血液疾患（白血病を含む）などによる可能性も含め、広い見地に立ってその原因を考えることが必要です。

### (2) 発熱

発熱は、一般的に感染症（特にかぜをはじめとする呼吸器疾患）の特徴といえます。ただし特殊なケースもあり、例えば亜急性甲状腺炎・急性肝炎（特にウイルス性の肝炎）・再生不良性貧血・急性白血病などの場合、二次的な感染症として発熱を示す場合もあります。小児の場合には、詳しい検査など入念な対処が必要です。

### (3) 貧血

貧血は一般的に日本女性に多くみられるもので、まず食生活や生理との関連を調べる必要があります。さらに、痔や消化管潰瘍からの出血、血液疾患などが原因であることもあるため、詳しい検査が必要になることもあります。

### (4) 痛み

症状としての痛みは、頭痛・胸痛・咽頭痛・耳痛・腹痛・四肢痛・腰背部痛など、部位によって原因が異なります。



外傷による痛みはもちろん、気づかれない骨折・骨腫瘍や、脊柱・関節・筋肉など運動器に接した神経の異常にも注意が必要です。原因によっては緊急を要することもあるため、詳しい検査を行うことが必要です。



### (5) 失神

一過性の意識消失を指すもので、血管迷走神経反射性のストレス（吐き気・頻脈・冷汗などを示し、ストレス・疲労・空腹などが誘因となります） 起立性失神（出血・貧血・脱水・感染症など） 心血管性失神（顔面紅潮を示し、不整脈や肺塞栓を含めた器質的心疾患

により突然発症するもの）の3種を考慮して検査することが必要です。また立ちくらみなどでは、脱水症（日射病・下痢・重症嘔吐・消化管出血）が関連していることもあります。

### (6) 痙攣

小児の熱性痙攣の場合を除き、状況の問診や身体所見、血液検査や画像診断などの検査が必要です。

### (7) 息切れ（呼吸困難・喘息発作を含む）

気管支喘息・閉塞性肺疾患(COPD)・間質性肺炎・心筋症・肺炎・うっ血性心不全などが原因としてあげられます。また、心因性のももあります。鑑別や治療には、病歴や身体所見についての的確な解析、X線などによる診断が必要です。

### (8) 出血・喀血・下血

出血については、静脈瘤性上部消化管出血による死亡率が高いのが特色です。また、消化管潰瘍・血液疾患・痔・外傷などの病変そのものはもちろんのこと、出血部位についても問題となります。それぞれ潜在する諸臓器のがんや炎症など、内視鏡などによる詳しい検査が必要となります。

喀血の場合は、安静・入院を必要とすることが多くなり、喀痰検査やX線検査、血液・尿検査、胸部CT検査や気管支鏡検査などによって詳しい原因を調べる必要があります。

### (9) 嘔吐

中毒・食道炎・食道がん・急性胃炎・消化性潰瘍・胃がん・大腸炎などの消化器疾患によるもののほか、妊娠、脳圧亢進（脳腫瘍・髄膜炎・脳内出血）が原因となって起こることがあります。



※日本医学交流協会医療団『ヘルスクエアプランナー教本』より抜粋

以上、『病変』と『症状』についてみてきましたが、病変が起こった場合にはそれを反映する症状をいち早く見つけ、正確な診断と適切な処置をおこなうことが必要です。

気になる病変や症状が現れた際には、当院までお気軽にご相談ください。



# リハビリ広場

障害のある方の日常生活に役立つ道具

## 『自助具』の紹介 ～食事編～

『自助具』とは、文字通り自らを助ける道具 (self help device) で、工夫された道具を用いることで、障害のある方の日常生活の自立をめざすものとして考案されました。

今回、食事の場で役立つ自助具をご紹介します。



★バネつき箸★  
間についたバネで箸操作が容易になります。

★太い柄のスプーン・フォーク★  
握りやすく持ちやすいように工夫されています。



★ホルダーつきスプーン・フォーク★  
握力がなくてもスプーンやフォークを持つことができます。

### ★滑り止めマット★

食器などの固定性が高まり、倒れにくくすべりにくくなります。



### ★すくいやすい皿★



皿の底が広く平らで安定性があり、スプーンによるすくい上げが容易になります。

ご質問・ご相談等ございましたら、2階作業療法室までお気軽にお越し下さい。

作業療法士 岡村 瑞穂



## 25名の仲間が増えました

3月31日、特別医療法人高明会の新入職員を迎える来院式がとり行われました。

今年は、看護師5名・介護職3名・薬剤師1名・放射線技師2名・臨床検査技師2名・臨床工学技士1名・理学療法士3名・作業療法士2名・運動療法士1名・事務部4名の、計25名の新しい職員を迎えました。

来院式では、渡邊高院長による挨拶のあと、昨年入職した作業療法士の石川昇平が職員を代表し、『初心を忘れることなく、1日も早くチーム医療を担える一員として活躍できるよう期待しています』と歓迎の辞を述べました。

それを受けて、新入職員を代表して看護師の松田彩が、『医療職として従事するにあたり、新たな夢や希望を抱いていると同時に、人の生命と向き合う職業の責任の重大さを痛感しております。それゆえ、諸先生諸先輩方のご指導をいただき、一步一步自分たちで新たな道を築ける力を持った医療職、また社会人として成長していきたい』と、入職にあたっての決意を述べました。

新たに加わった25名の新入職員とともに、地域に根ざした安定し安心できる医療を提供すべく、今後も職員一同頑張っていきたいと思えます。



## 献血車来院! 一献血協力をおこないました

4月19日献血車が来院し、当院職員をはじめ数十人が献血協力をおこないました。

血液は人の生命を維持するために不可欠なものであり、疾病による血液の機能異常や貧血、外傷による大量出血の患者さまの生命を救うため輸血は重要な役割を果たします。そしてその

輸血用血液は、献血によってしか確保することができません。

地域の皆様の健康と福祉に責任を持った病院として、当院は今後も献血事業への協力を行っていきたくと思えます。



むろかわNewsに対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。

※ 当院各階詰所・1F出入口に設置しております「ご意見箱」をご利用ください。